

移住者の発想で生まれた「遊ぶように働く」山村のシェアオフィス

オフィスキャンプ東吉野 奈良県東吉野村

奈良県東部に位置する人口約1,700人の静かな山村・東吉野村。同村が2015年3月に開設した「オフィスキャンプ東吉野」が、地域活性化の成功事例として全国的に注目を集めている。

同施設は古民家をリノベートしてできたクリエイター向けシェアオフィス（複数の利用者が同じスペースを共有する仕事場）。Wi-Fiやプリンタ複合機等の設備と、和室4室・打合せ室、キッチン、風呂などを備え、1日1人500円で利用できる。クリエイターを中心に口コミで人気が広がり、訪問者は1年間でのべ1,500人を超えた。

また村の移住窓口としての機能も持ち、ここをきっかけに移住した人は7組13名。移住者はデザイナーや写真家などのクリエイターがほとんどで、中には著名な米国人デザイナーも含まれる。

同施設の設置を村に提案し、現在管理・運営も手掛けるのが村内在住のデザイナー・坂本大祐氏（40歳）。坂本氏自身も10年前に大阪から来た移住者で、「ITを活用して若者を誘致したいとの考えは以前からあった」という水本実村長の思いに坂本氏のアイデアが結びつき、村の若者定住施策「クリエイティブビレッジ構想」の一環として一気に事業が具現化した。

同構想は、移住者の仕事の確保が課題となる中山間地の同村において、インターネットを使えばどこでも仕事ができるクリエイターの若者を呼び込み地域を活性化しようというもの。施設の整備に当たっては坂本氏のセンスを水本村長が信頼し、「全面的にアートディレクションを任せてもらった」（坂本氏）。その結果、感度の高いクリエイターの感性に“刺さる”魅力的なハードが完成した。

また「まずは情報として露出し存在を認知してもらうことが必要だが、その情報の質感や見せ方へのこだわりが非常に重要」という坂本氏の考え

方に基づき、インターネットやメディアで発信する画像や文章なども吟味している。

「施設への訪問者の半分以上が移住に興味を持つ人で、特筆すべきは全体の3割を外国人が占めること」と語る坂本氏。公式サイトは英語対応しており、皆ネットで情報を得たりSNSの口コミなどで立ち寄っているという。特にヨーロッパ人や、アートや精神文化に関心の高い外国人が多い。

外資系大手IT企業などトレンドに敏感な事業者の視察や、都市部の企業によるシェアオフィス利用も相次いでおり、全国的なトレンドの最先端の動きの一つともいえる同施設。注目を集める理由を「中山間地での新しい住み方や働き方をリアルにイメージできる場所として具現化・可視化できたことが大きいのでは」と坂本氏は分析する。

今後は宿泊拠点や簡単なものづくり設備の整備等も視野に入れ、「地方に感度の高い人やものづくり拠点が散らばるとい世界的な潮流を取り込み、『あたらしい移住』を発信したい」とさらに取り組みを深める考えだ。（吉村謙一、太田宜志）



民家を改装した外観（上）。樹齢350年のケヤキのテーブルに外国製チェアが並ぶ打合せ室（左下）。利用者以外でも気軽に立ち寄れるコーヒースタンドも備える（右下）。車で大阪市内から1時間半、最寄りの近鉄榛原駅からは30分と、意外と気軽にアクセスできる立地だ。



坂本大祐氏

オフィスキャンプ東吉野

〒633-2421
奈良県吉野郡東吉野村小川610-2
TEL: 0746-48-9005
MAIL: 2015och@gmail.com
URL: <http://officecamp.jp/>